

平成29年度事業報告



学校法人 城星学園

はじめに

学校法人の健全経営とともに充実発展をはかるため、平成２９年度においては、理事長の「平成２９年度からの学園運営方針(別掲)」に基づいて、各校種が一つになって、学園の建学の精神のもとに教育活動を推進した。特に平成２８年１１月には大阪星光学院と連携協力確認書を取り交わし、兄妹校として様々な教育活動において連携を深め、同じ創立者の両校がさらに発展していくことを確認した。創立者ドン・ボスコの「こどもを愛するだけでは足りない、こどもが愛されていると感じなければならない」という言葉に代表される教育理念は、現代社会においてますます求められている。その教育理念のもとに、本学園は今後も幼小中高の各教育活動が展開される中で、子どもの成長に合わせて、一貫した教育ができる総合学園としての強みを活かして、教育活動に邁進していく。近年、特に小学校から中学校への内部進学者が減少しているが、大阪星光学院との連携を契機に、様々な教育活動における交流を活かしながら、教育改革、広報活動強化、小中連携強化によって、内部進学者の増加をはかっていく。

また、外部に対する情報公開とともに積極的な自己点検評価・学校評価が求められている。平成２９年度においては学園後援会との連携のもと、全保護者あてにアンケートを実施し、貴重なご意見が多数寄せられた。その結果を学園の教育活動に活かしながら、平成２８年度学校評価としてまとめた上で情報公開するとともに、平成３０年度に向けてさらに充実した評価活動の実施と教育活動のさらなる推進に繋げていきたい。

《平成２９年度からの学園運営方針》

- １．ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する。
- ２．「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する。
- ３．『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する。
- ４．校種間、兄妹校間の連携を強化する。
- ５．自然に挨拶が交わせる学園にする。

《平成２９年度取り組み事例》

- ・大阪星光学院との連携事業の推進。
- ・各校種の教育活動及び広報活動等（各校種の活動報告参照）。
- ・各校種の自己評価及び学校評価（全保護者アンケート）の実施。
- ・中高教育改革の推進。
- ・幼稚園未就園児対象の体験広場や預かり保育等による子育て支援の実施。
- ・守衛・警備の強化（平成３０年度より２４時間体制への移行準備）。
- ・学園広報活動の充実（各校種の活動報告参照）。
- ・はぐくみの園の活動、JAT（城星学園課外教育活動）プログラムの実施、城星キッズクラブの開設と活動。
- ・事業計画の充実に向けた計画書の見直し。

次頁より、各校種の教育活動等について報告する。

1. 法人の概要

建学の精神 : 城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命とする。

所在地 大阪府大阪市中央区玉造2丁目23番26号

法人成立の年月日 昭和28年3月25日

学校設置認可年月日

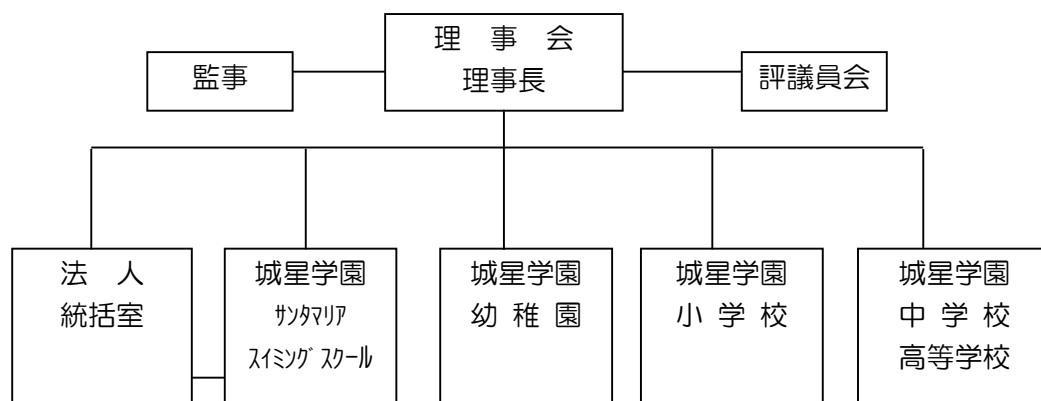
幼稚園 昭和28年3月16日

小学校 昭和28年3月16日

中学校 昭和34年2月27日

高等学校 昭和37年1月14日

学校法人 城星学園 組織図 （平成29年4月1日現在）



1) 設置学校及びクラス数

(平成30年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校	城星学園中学校	城星学園高等学校(全日制普通科)
3 年保育 3 クラス	1 年 3 クラス	1 年 1 クラス	1 年 総合進学コース 2 クラス、特別進学コース1クラス
2 年保育 3 クラス	2 年 3 クラス	2 年 1 クラス	2 年 総合進学コース 2 クラス、特別進学コース1クラス
1 年保育 3 クラス	3 年 3 クラス	3 年 1 クラス	3 年 総合進学コース 2 クラス、特別進学コース1クラス
計 9 クラス	4 年 3 クラス	計 3 クラス	計 9 クラス
	5 年 3 クラス		
	6 年 3 クラス		
	計 18 クラス		

(平成29年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校	城星学園中学校	城星学園高等学校(全日制普通科)
3 年保育 3 クラス	1 年 3 クラス	1 年 1 クラス	1 年 総合進学コース 2 クラス、特別進学コース1クラス
2 年保育 3 クラス	2 年 3 クラス	2 年 1 クラス	2 年 総合進学コース 2 クラス、特別進学コース1クラス
1 年保育 3 クラス	3 年 3 クラス	3 年 1 クラス	3 年 総合進学コース 2 クラス、特別進学コース1クラス
計 9 クラス	4 年 3 クラス	計 3 クラス	計 9 クラス
	5 年 3 クラス		
	6 年 3 クラス		
	計 18 クラス		

2)定員および在籍者数(各5月1日現在)

年 度	幼稚園 (定員 280)		小学校 (定員 600)		中学校 (定員 180)		高等学校 (定員 450)		計	増減 (対前年度)
	ｸﾗｽ	現員	ｸﾗｽ	現員	ｸﾗｽ	現員	ｸﾗｽ	現員	現員	
平成 30	9	278	18	590	3	63	9	227	1,158	0
平成 29	9	285	18	592	3	59	9	222	1,158	+ 33

3)役員等・教職員

役 員 等:

年 度	理事	監事	評議員
平成 30	8 人	3 人	1 8 人
平成 29	8 人	3 人	1 8 人

教職員：

(5月1日現在)

(人)

年 度	幼稚園			小学校			中学校			高等学校			法人統括室			ＳＳ			計
	専 任	常 勤	非 常 勤	専 任	常 勤	非 常 勤	専 任	常 勤	非 常 勤	専 任	常 勤	非 常 勤	専 任	常 勤	非 常 勤	専 任	常 勤	そ の 他	
平成 30	14	5	8	27	6	4	3	3	1	18	8	12	12	2	3	3	1	21	151
	計 27			計 37			計 7			計 38			計 17			計 25			
平成 29	13	3	6	25	6	3	4	2	1	18	8	12	10	3	2	1	4	18	139
	計 22			計 34			計 7			計 38			計 15			計 23			

4) 役員会の開催

① 理事会・評議員会

理 事 会： 平成29年 5月
 平成29年 8月(休会)
 平成29年11月
 平成30年 3月

評議員会： 平成29年 5月
 平成30年 3月

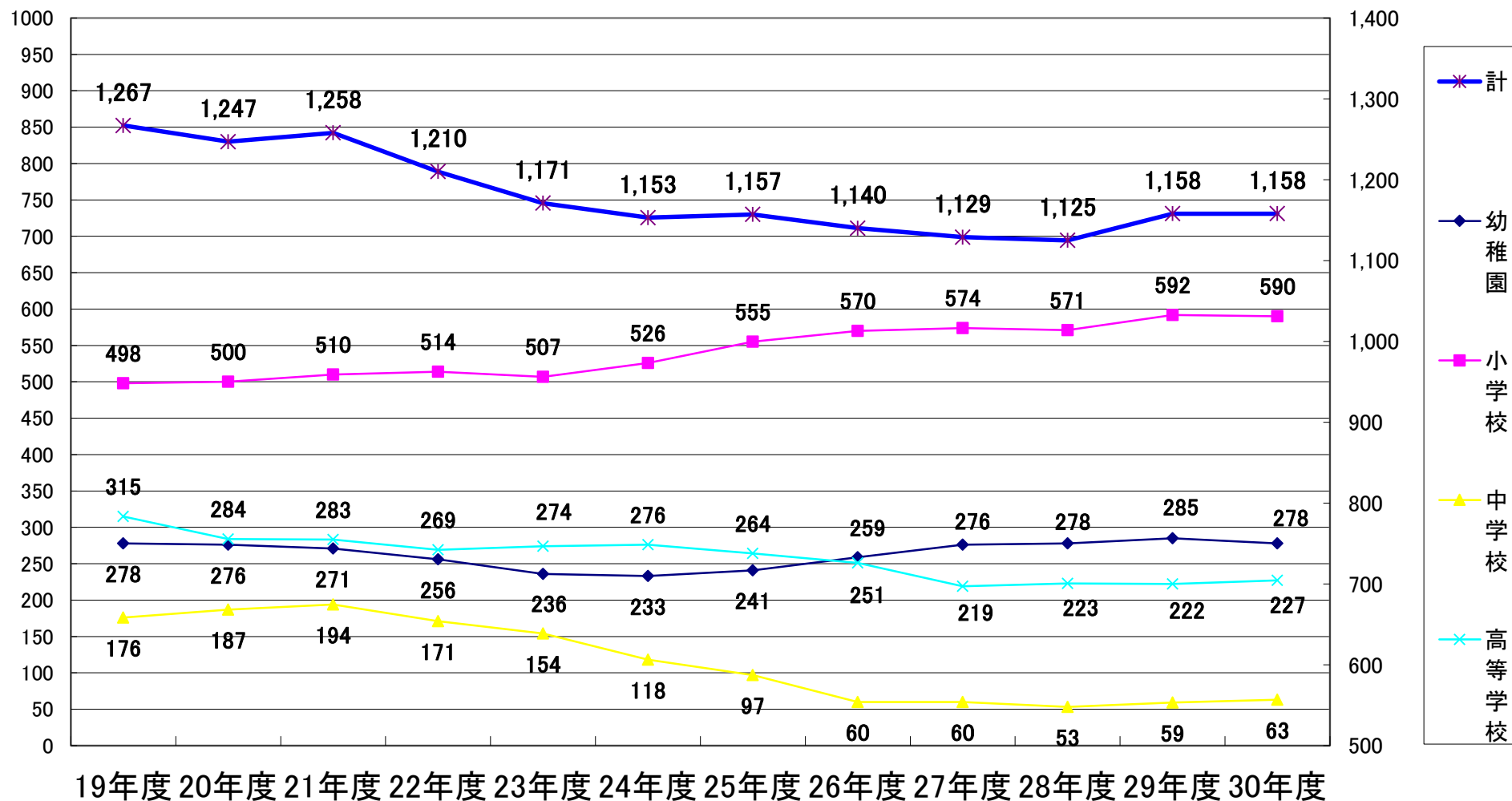
② 監 査： 平成29年 5月

1) 募集計画及び教育計画等

()は内部進学者数。 ※別途入園者含む。

年度	区 分	幼稚園			小学校	中学校	高等学校
		3年保育	2年保育	1年保育			
平成 3 1	新入生募集人員	90	若干名	若干名	約100	50	75
平成 3 0	新入生募集人員	80	20	—	100	40	75
	志願者数	183	12		212	29	102
	受験者数	165	10		206	25	102
	合格者数	106	3		130	25	102
	入学者数	91	3		99(32)	23(7)	72(16)
平成 2 9	新入生募集人員	80	20	若干名	100	40	75
	志願者数	149	8	2	149	26	93
	合格者数	107	5	0	135	26	93
	入学者数	96	5	0	104(28)	24(2)	71(18)

生徒数推移



学校法人城星学園 中期行動計画-2017 年度のふりかえり

建学の精神:

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ(ドン・ボスコ)の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

教育理念:

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

【中期方針・2017 年度部門別行動計画及びその評価】

法人

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
1.ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する。	(A)福音を感じさせる施設・設備の整備を行う。	清潔感を向上させる、カトリック関連の物品を効果的に配置する	学園の雰囲気福音が感じられること。	具体的な提案ができるに至っていない。学園全体でのコンセンサスのもとに実施できるよう検討していく必要がある。	司牧委員会で検討してもらうようにする。
	B)カトリック精神の理解を深める。	大阪星光学院の職員と合同でサレジオ神学校での1泊2日研修を企画実施。	ドンボスコについての理解を深める。	予定どおり実施し、ドンボスコについての理解を大阪星光学院の職員とともに深めることができた。両校合同で実施したことで、連携を深める付加価値も得られた。	次年度も、同様の研修会を実施する。

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
2.「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する。	(A)防災・防犯マニュアルの見直し。	個々の問題の洗い出しを行う。	学園全体の防災・防犯の有機的連携体制を構築する。	月1回以上の全校定例防災委員会を開催し、新しい防災マニュアルを作成することができた。	今後も、状況に応じてマニュアルの見直しをその都度行っていく。
	(B)全学一体的な防災・防犯訓練を実施し社会にPRする。	備品の整理および防犯訓練の内容の充実をはかる。	学園全体の防災・防犯の有機的連携体制を構築する。	予定どおり、全教職員に実地に即した防災訓練を実施できた。	テーマ別で複数の訓練を年度予定の中に体系的に組み込んでいくことで、訓練をさらに充実させたい。
	(C)防災備蓄品の機能的な整備。	たな卸しを行い、効率的に利用できるように備品配置を見直す。	機能的な装備・配置と教職員への周知。	防災倉庫・防災井戸が完成し、機能的に活用できる環境を整えることができた。	備蓄食料の質と量を再検討する。防災倉庫の備品の点検と補充を行う。
3.『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する。	(A)在籍教職員の資質を向上させる。	階層別に研修を実施する。	立場の応じた役割を認識する。	年間行事の中で、計画的に研修を組入れることができなかった。校種間連携のもとで実施する必要がある、その点を踏まえて再検討したい。	体系化された有意義な研修ができる仕組みを校種間連携のもとにつくり、研修を計画的に実施する。
	(B)新規入職者の資質を向上させる。	新規入職者等にふさわしい研修会を企画する。	接遇マナー、社会人としての常識を身に付ける。	同上	同上

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
4.校種間、兄妹校間の連携を強化する。	(A)大阪星光学院生徒の学園施設設備利用の促進。	SS、テニスコートの利用など協力する。	クラブ活動等を通じて両校の交流を深める。	本学園施設はもとより、大阪星光学院の施設も利用させていただいた。双方にとって、有意義に相互の施設利用ができている。	教職員の利用も含めて、相互の施設・設備の有意義な利用の促進をはかる。
	(B)職員合同研修会を実施する。	大阪星光学院の職員と合同でサレジオ神学校での1泊2日研修を企画実施。(1-(B)と共通)	職員同士の交流を深める。	1-(B)参照	1-(B)参照
5.自然に挨拶が交わせる学園にする。	全学的施策を企画する。	(A)教職員のためのアメニティを向上させる。	スクールコンビニ・マルゲリータガーデン・マルゲリータルームを充実させる。	スクールコンビニ、マルゲリータルーム、マルゲリータガーデンと一体的に、子ども達、教職員に有意義に活用されている。	講堂棟2階と高校棟2階を渡り廊下で繋ぎ、導線上の安全確保とともに講堂と一体的な効率的な活用をはかっていくことを検討する。
		(B)照明を順次 LED に切り換える。	学校全体の照度をアップして明るくする。	高校棟2階廊下を計画どおりLEDに切り換えた。	本館1階の各室をLEDに順次切り替える。
		(C)施設設備のキズをこまめに補修する。	外観をきれいに明るくする。	施設設備担当者がチェックシートを作成し、施設設備の点検を行っているが、施設設備の老朽化に伴う故障等への対応が中心で、美観を含めた対応が充分にできなかった。	施設設備担当者およびアウトソーシングの用務員の仕事の分担をチェックしたうえで、効率的なメンテナンスの体制を整える。

幼稚園

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
1.ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する。	キリストの教えと生き方を学ぶ。	キリスト教の精神に基づく教育活動の実践。	キリスト教に対する教員の意識と行動の変化。	宗教の話、行事などの中で投げかけており、意識の向上をめざした。	聖書やドン・ボスコについて研修を深め、意識をもって保育の中にいかしていくとともに、祈る場の雰囲気も作っていく。
	アシステンツァを実践する。	子ども自身が愛されていると実感できるよう、愛情深く見守る。	信頼関係の構築。	見守り関わってきたが、年度途中で教員の退職発生が保護者、子ども達ともに不安にさせてしまった点は残念であった。	一人ひとりに目を向けるとともに、全体の様子を把握し、愛を持って関わり信頼関係を築いていく。
2.「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する。	安全教育を実施する。	交通安全の指導、防災と地震の訓練を実施する。	子どもたちと教員自身の意識と行動の変化。	様々な場面を設定しながら、対応や行動の内容について見直し、取り組む事ができた。	交通安全、防災の知識を深め、必要な研修や訓練に参加し実施する。
		教育環境の危機管理の為、定期的に点検をする。		安全面を念頭において、点検時以外においても環境に目を向ける習慣がついた。	絶えず危険箇所を目を向け、点検し必要な修理を行っていく。

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
3.『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する。	教職員の研修を実施する。	教育者としての意識と技術の向上。	研修の実施と各教員の習得、実践。	園内研修の取組みは保育を見直す機会となった。園外での研修にも積極的に参加したい。	園内研修を充実させるとともに、園外の研修に参加し、知識や技術を深め実践していく。
		教員間の人間関係を深め共に連帯していく。		教員減少により、今まで以上に連帯感を持って取り組むことで気づくこともあり、補い合うことが出来た。	連帯感をもち、他学年の動きを知ることで相互に協力し合い、協働意識を高める。
	園児に関する情報交換を実施する。	日常的に情報交換を行う。	全園児の情報を全教員が認識し共有する。	情報交換を行う機会を毎日持ち、全教員が共有することが出来た。	全園児の情報を共有し、全教員で対応していく。
4.校種間、兄妹校間の連携を強化する。	中高生徒と園児との交流を実施する。	中高生徒の保育体験の場を提供する。	生徒の体験実施と幼中高教員の連携意識の向上。	夏期休暇時以外にも園児との交流の機会を設けた。	保育体験の機会を持続けるとともに、他に交流できる機会を持つ。
	園児と児童の交流会を実施する。	交流会を実施する。	交流会の実施と幼小教員の連携意識の向上。	園児・児童間の交流の機会の場づくりについて検討を重ねている。	3 学期だけではなく、他の学期において交流会を実施する。

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
5.自然に挨拶が交わせる学園にする。	教職員間で挨拶を励行する。	教職員間で挨拶を励行する。	本校職員としての意識をお互いに注意喚起。	校種を問わず、率先して挨拶を交わすことを習慣づける必要がある。	明るい挨拶が出来るように、率先して挨拶するよう心がける。
	園児に対し挨拶・会釈の指導を行い、励行を促す。	親しみをもって交わり、保育者自身が手本となる。	良き社会人としての基本的な生活習慣の意識向上。	率先して声をかけ笑顔で接することで、子ども達の方から先に元気な挨拶をする姿が見られた。	挨拶することの気持ちよさを伝え、感じることで、自ら挨拶できるように促していく。
	より良い教育共同体作りを行う。	「母の集い」や集会を通して連帯意識を強める。	相互の信頼関係の構築。	新体制になり信頼関係の構築を目指した。なお、年度途中で教員の退職が発生し、園児・保護者に対し不安感払拭に努めなければならなかった。	様々な集会を通して思いを伝え合い、信頼関係、連帯意識を高める。

6.教育計画	予防教育法をなお一層研究し実践する。	ドン・ボスコの心をより深める。	日常の幼児教育の中で意識をもって生きる。	予防教育法を意識し保育に生かしてきたが、研修する機会は改めてもつこととなった。	ドン・ボスコの教育理念を研究し、実践していくことで、日々の保育を充実させる。
7.募集計画	「体験ひろば」の遊びの充実と保護者への啓発を行う。	「体験ひろば」からの応募者とその他の関係者からの応募者に配慮する。	「体験ひろば」、他の関係者の確保。	入園予定の子どもを体験ひろばに参加できるように配慮することが出来た。	園の様子、保育内容をHP等を通して知らせるとともに「体験ひろば」の内容も充実させ募集に繋げていく。

小学校

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
1.ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する。	(A)ミッションスクールとしての意義をより強く認識する。	司牧研修を活性化する(宗教研修、ドン・ボスコ研修、1泊研修を実施する)さらに聖書に親しむ。	教員自身の意識と行動の変化。	教員一人ひとりが日々の祈りの意向を考えながら先唱するようになり、祈りへの意識の向上が感じられるようになった。	継続遂行とともに、個人として静かに祈ることを奨励する。マリアマザレロ、ドメニコサビオ、ラウラビクーニャについての学びを深める。
	(B)ミッションスクールとしての特性を具現化する。	宗教行事を充実させる復活祭行事も検討する。	子どもたちの意識と行動の変化。	教育の中核をなす心の教育をミサを始めとする宗教行事の効果的な実施について再検討が必要である。	クリスマスと復活祭をミッションスクールにおける重要な行事としてとらえ、保護者及び児童にさらに啓発する機会を設ける。
	(C)保護者の理解度を向上させる。	保護者対象勉強会(校長)を実施する。	保護者各位の意識と行動の変化。	母親教室、ドンボスコ勉強会を各6回実施する。島元シスターにお願いした。	継続遂行する。

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
2.「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する。	(A)各学年にふさわしい安全教育を実施する。	学年別各種教室を実施する登下校指導の強化。	子どもたちと教員自身の意識と行動の変化 けが0 デーを制定する(毎週金曜日)合わせて、防火・安全点検日とする。	1年交通安全教室 2年危険防止教室 3年自転車教室 4年防災教室 5年非行防止教室 6年薬物乱用防止教室を実施した。	登下校を含め、生活指導について教員の温度差がないように、一致と共通理解を図る。
	(B)危機管理研修を実施する。	心肺蘇生法研修を実施する炊き出し訓練を実施する 消防計画(小学校版)の作成。		炊き出し訓練及び児童引渡し訓練を実施することができなかった。危機管理研修として講話を拝聴し、ともに考える場を設けた。	各論として、実際の場面を想定しながら危機管理についての認識を深める。
	(C)避難訓練を実施する	避難訓練を年 4 回実施する		「おはしも」の徹底実行を図った。	全校で避難実施するため、年3回とする。水泳時避難訓練の実施を考える。

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
3.『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する。	(A)教職員研修を実施する。	ア)「褒め方・叱り方」に関する研修を実施する。	褒めて伸ばす教育の実践。	研究授業6回, ノートレポート研修2回, ドンボスコ研修2回, 聖書研修1回, 1泊2日黙想会を実施した。	国語科教式研修「いずみ会」「かく」ことに関して原点に戻り意識を高めあう。
		イ)新任研修会を実施する。	建学の精神と本校の教育について理解すること。	研修授業は実施済み。実技研修は日程の都合により実施できず。かわりに危機管理研修を実施した。	継続実施とする。
	(B)児童に関する情報交換を実施する。	日常的に情報交換を行う。	全児童の情報を全教員が認識していること。	クラスを越えて, 学年で問題意識を持ち解決を図った。全教員間でも情報を共有しあらゆる場面で対処できるようにしてきた。	保護者と連絡を密にとること, また関係各位との連携を深め, 対処できるようにする。

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
4.校種間、兄妹校間の連携を強化する。	(A)全校種合同研修会を実施する。	合同研修会を実施する。	全校種の教員の関係性構築。	「はぐくみの会」の結成と機能化を図った。	ますますの発展を期待する。
	(B)幼稚園と小児童の交流会を実施する。	交流会を実施する。	交流会の実施と幼小教員の連携意識向上。	生活科を中心に考えている。昨年度は遊び中心に終わる。	継続審議する。
	(C)小と中高の教員による授業研究を実施し交流を図る。	授業見学とそれを踏まえての意見交換会を実施する。	授業見学会の実施と小中高教員の連携意識向上。	国語科を中心に研究授業への参加を呼びかけた。	幼稚園保育, 中学校教育とのつながりを中心に授業研究に励みたい。
5.自然に挨拶が交わせる学園にする。	(A)教職員間で挨拶を励行する	教職員間で挨拶を励行する	本校職員としての意識をお互いに注意喚起。	「明るく笑顔で元気よく」をモットーに実施してきた。	継続励行を呼びかける。
	(B)児童に対し挨拶・会釈の指導を行い、励行を促す	児童に対し挨拶・会釈の指導を行い、励行を促す	良き社会人育成の「鏡」となること。	習慣として身につけている児童と、そうでない児童に差があるものの、挨拶を意識していると感じられる。	廊下歩行や登下校時の挨拶・会釈についても指導を徹底する。小学校教員だけでなく、学校内の教員、職員に対しても礼儀正しく接することを心がける。
	(C)保護者に対し啓発を行う。	母親教室で啓発を行う。	良き社会人育成の「鏡」となること。	母親教室を年6回実施。中高副校長の松本先生にもご講話いただいた。	継続励行。

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
6.教育計画	アシステンツァを励行する。	「いつもどこでも子どもと共に」の実践を図る。	教育成果の向上。	児童に多様な指導が必要になった。休み時間に運動場に出て児童と過ごすという面では減少。	「建学の精神」に立ち戻り、「児童とともに考え、行動する」ことを再確認し、行動に移す。
7.募集計画	学校の魅力を発信する。	媒体の更なる活用を図る。	新入生の定員確保を目指す。	学校説明会, 体験学習, オープンスクールの実施。外部, 関西私立小学校展, キッズフェスタへの参加。塾, 幼稚園等の要望による説明会を実施した。	プロジェクターや視聴覚機器等の利用による効果的な魅力の発信を考える。

中学校・高等学校

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
1.ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する。	カトリックの精神、ドン・ボスコの教育、特に「アシステンツァ」の理解を深める。	各職員会議前の全体研修や経験年数別等のグループ研修を実施する。	ミッション校の教員としての意識を高める。	職員会議の冒頭でドン・ボスコの教育に関わる話を行ったが、聞く側にとって、具体的な行動の変化をおこすものとなっているか疑問である。	近畿カトリック学校連盟で行われている養成会の参加者に協力をいただき、先生方が自らこの側面について考えることができるように工夫する。
	祈りを励行する。	職員朝礼、各会議の終わりに全員でお祈りを唱和する。	「教育は心の問題である」という創立者の言葉を深める。	祈りは丁寧に行われている。	生徒が落ち着いた心で祈ることができる環境作りを教員が導くことができるようにする。
	学園の教育精神についての保護者の理解度を向上させる。	保護者対象の勉強会を企画運営する。	教育活動の理解者を増やす。	学校説明会などの参加者には学園の精神の説明を丁寧に行った。在校生保護者対象の勉強会は計画段階。	学期に1回、中高保護者の希望者を対象に、「聖書＋α」等の勉強会を実施する。

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
2.「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する。	教員の危機管理意識を向上させ、安心、安全な教育環境をつくる。	机上、ロッカー等の職場環境の整理整頓をする。	書類紛失等の不手際を防ぐ。	机上の整理整頓は教員によって異なった。	個人情報に関係するプリント類は机上に出しっぱなしにしないことをまず注意する。
	安全教育の向上。	SNS 使用、防災、防犯、薬物乱用防止等の講座を実施する。	教員、生徒の危機管理意識を高める。	SNS使用、防犯、薬物乱用防止に向けた指導は実生活でも生かされている。問題事象が起こった時は、早期対応ができ、大事に発展することがなかった。	今後も事あるごとに指導を続けていく。
	保護者との情報共有。	多角的な判断を元に生徒を見守る。	生徒の安全性を重視し、問題事象の早期対応をする。	生徒指導上の問題事象への対応は、保護者とも情報共有しながら進めた。災害時の対応についてはそれができていない。	学園の災害マニュアルを教員で確認し、出来る限り実践対応できるような管理方法を考える。

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
3.『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する。	教員研修の実施。	授業力、担任力向上を目指した研修、人権研修、マナー研修等を実施する。	教育の『質』を向上させる。	研修によって、教育内容やその方向性が適切であるのかを検討することができた。	中高教員に必要と思われる研修について、各部署で検討してもらい、必要に応じて実施する。
	組織として動く。	報告・連絡・相談を丁寧に実施する。	組織運営を徹底させる。	全体としては、各部署、学年からの報告、連絡、相談のもとで動くことができた。さらに組織的な動きとしていく。	先生方からの報告・連絡・相談を求めると同時に、管理職からも先生方に積極的に情報提供を求めている。
	生活指導の徹底	礼儀、マナー、身だしなみ等についての指導を統一する。	『良き社会人』としての成長を促す。	生活指導は全教員が同じ目標を共有していなければ出来ないものであるが、指導のばらつきや温度差に留意する必要がある。	指導のばらつきや温度差の無いよう、出来る限り意志統一を図る。

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
4.校種間、兄妹校間の連携を強化する。	校種間のつながりを強化する。	幼稚園、小学校の行事への参加。	「学園」としての意識の向上。	管理職以外は、他校種の行事の見学について能動的な実施には至らなかった。	「はぐくみの園」を中心に、出来る限り校種間の交流を模索する。
		生徒と園児、児童との交流の場を検討実施する。	内部進学者数の増員。	「はぐくみの園 城星学園」の設置をはじめ、様々な投げかけによって、内部進学者増は実現した。	「はぐくみの園」主催のイベントを実施する。
	大阪星光学院との連携をもつ。	大阪星光学院との教科間の教員交流、授業見学実施。	大阪星光学院との連携を生かす。	教科主任、部活動担当者を窓口になんげ大阪星光学院の教員との接触を持ち始めることができた。	教科、部活動、その他、可能なところから大阪星光学院の教員との接触、交流の場を増やしていく。

中期方針	中期行動計画	2017 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)	次年度以降に向けて
5.自然に挨拶が交わせる 学園にする。	教職員間で挨拶を励行する。	校種を越えて挨拶をする。	職場環境のモラルを向上させる。	挨拶の声が自然に聞こえるようになった。	校種間をこえた挨拶と同時に、他校種(法人含む)の教職員の名前と顔が分かるようにする。
	『良き社会人』としての模範となる。	生徒に対し、教員から挨拶を励行する。	挨拶の大切さを学ばせる。	教員から生徒への挨拶や声かけは聞こえるようになった。	園児、児童、生徒への挨拶を心がける。
	学園のメンバーとしてふさわしい存在となる。	来校者に対し、教員、生徒共に挨拶を励行する。	学園全体のイメージアップ。	来校者に対しては意識的に丁寧な対応が行われている。	継続する
6.教育計画	ドン・ボスコの教育理念の実践の実りとして、「主体的に考え、行動し、学ぶ生徒」の育成を目指す。	生徒、保護者、また教員間の傾聴と対話を重視し、信頼関係を築くよう努める。	ドン・ボスコの教育法による教育力の向上。	学校生活に困難をもつ生徒またその保護者との関係づくりに難しさが見られた。	特に学校生活に不安を示し始めた生徒、保護者には、今以上に早期対応する。
7.募集計画	大阪星光学院との連携を機に、中高のレベルを引き上げ、伝統を守りつつ新体制をアピールする。	募集定員の増加を図る。	現状を把握し、募集に関する教職員全員の行動と意識改革。	大阪星光学院との連携だけでは、募集には繋がらない。更なる連携体制を構築させる中で、渉外活動の見直しが必要である。	具体的な様々な策を打ち出し(特待生度・個別学力保障)自校の弱点・欠点はできるだけゼロに近づける働きを強化する。

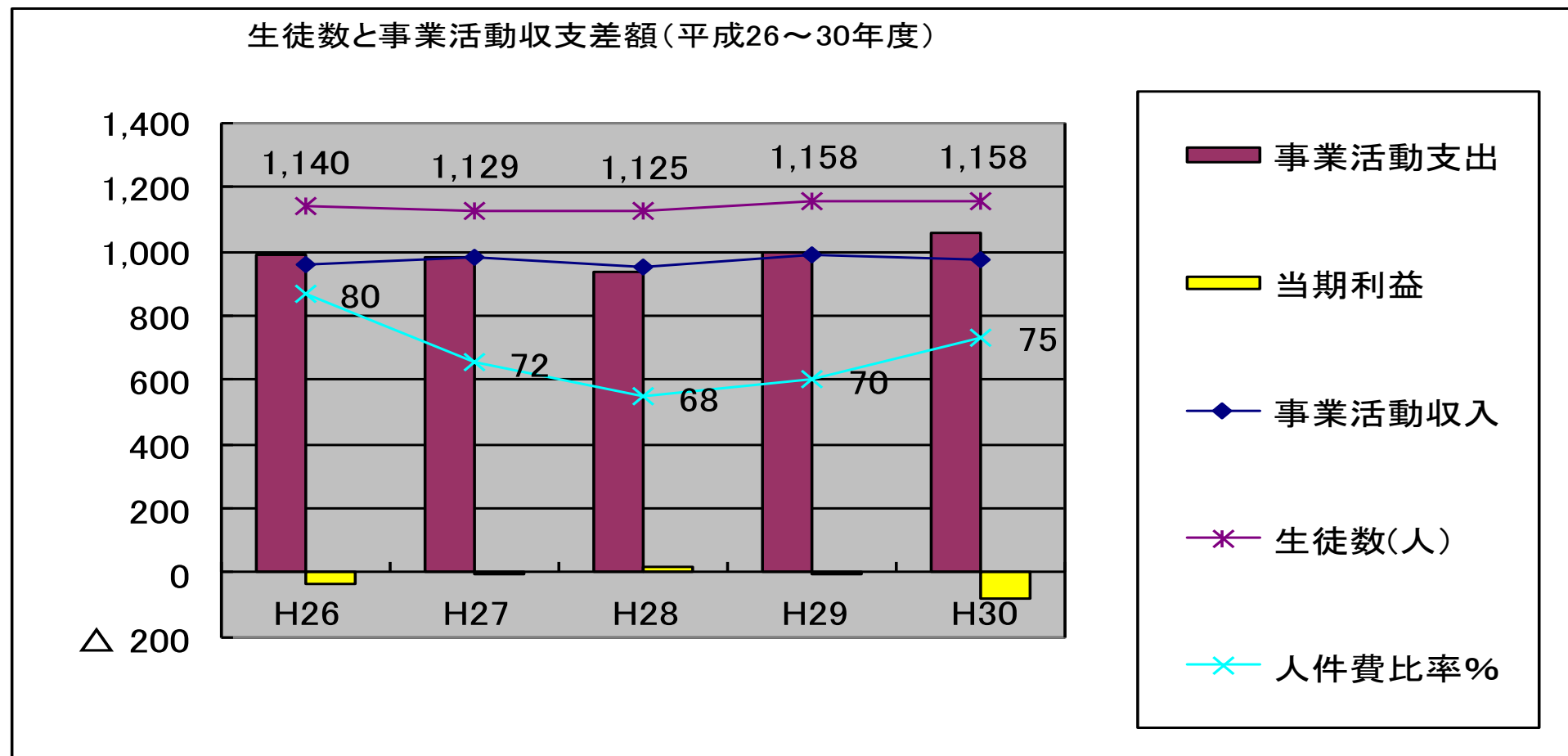
施設設備計画（報告）

教育環境整備の一環として、次の工事等を実施した。

工事・設備等名称		工事業者	執行月	金額（円）	
				予定額	執行額
(1)	学童保育室増設	竹中工務店	3月	37,000,000	4,698,000
(2)	本館4F西側トイレ改修工事	竹中工務店	8月	22,680,000	22,680,000
(3)	幼稚園空調機更新工事	玉尾ショップ	8月	29,592,000	29,592,000
(4)	防災用井戸設置工事	森川鑿泉	8月	3,240,000	2,700,000
(5)	高校棟南側屋外キュービクル更新工事	朝陽電気	8月	12,000,000	12,000,000
(6)	幼稚園入り口・柵の補修	竹中工務店	3月	313,200	313,200
(7)	階段ホール及び扉塗装工事	竹中工務店	3月	756,000	756,000
(8)	本館ベランダ撤去・防水工事	竹中工務店	3月	7,635,600	7,516,800
(9)	物置新築工事（防災倉庫）	竹中工務店	8月	20,451,375	21,999,600
(10)	プール内水銀灯のLED化	京阪ビルテクノ	5月	7,884,000	7,884,000
(11)	小学校保健室フローリング張替	竹中工務店	8月	—	2,322,000
(12)	小学校理科準備室増設工事	竹中工務店	8月	—	4,125,600
(13)	サンタマリアSS梁補修工事	竹中工務店	8月	—	961,200
(14)	講堂1F男女トイレ改修工事	竹中工務店	8月	—	10,335,600
(15)	幼稚園長室洗面台新設工事	岩田電器	4月	—	485,000
(16)	西門インターロッキング補修工事	三井住建設道路	6月	—	475,200
(17)	幼稚園保健室新設工事	竹中工務店	6月	—	1,033,743
(18)	小学校閲覧室空調機入替工事	岩田電器	7月	—	870,000
(19)	本館西側屋上防水工事	竹中工務店	8月	—	723,600
(20)	スイミングろ過器フィルター取替	光伸	9月	—	557,280
(21)	スイミング駐輪場照明改修工事	TOKS	11月	—	305,640
計				141,552,175	132,334,463

財務状況（報告）

次のとおりであるが、今後、大阪星光学院との連携協力、学園再生戦略等により中高生の生徒数の定員確保をはかっていくなかで、収支の改善・安定を求めている。



※平成30年度は予算額